

2学期終業式校長あいさつ

皆さんおはようございます。

2学期は、始業式から数えて今日まで87日間でした。5ヶ月にわたる長い学期でした。学習、学校行事、生徒会活動、部活動など様々な場面でそれぞれの体験ができたと思います。

さて、3年生の皆さんは、3年間の高校生活を完全燃焼するため進路実現を目標に励み、過ごしてきました。既に、進路も決定し、卒業後の準備に入っている人もいます。

進路が決まったからといってもゴールではありません。学び続けることが大切です。就職・進学後に必要となる次なる資格や勉強に取り組んでください。

2年生の皆さんは、3年生から部活動、生徒会活動などを引き継ぎ、学校の中心となって頑張ってくれています。生徒会執行部も例年の文化祭に代わる「学習成果発表会」の企画運営に携わり、中心的に関わってくれました。ここで音楽部やダンス部は日頃の練習の成果発表を発表してくれました。また先生方のパフォーマンスも楽しめました。

コロナウイルス感染拡大で実施が危ぶまれた修学旅行でしたが12月1日から4日の間、沖縄の温暖な海や自然に親しみ、平和学習を積み重ね、歴史や観光の現状などを学習することができました。広島とは違った文化や風景、食べ物を目の当たりにして、さらに多くのことを感じ、考えてくれたのではないのでしょうか。沖縄での体験が今後活かせることを期待しています。

1年生は、2学期は体育祭など行事をひとつお経験し、佐伯高校での生活にも慣れ、自分の居場所を見つけつつあると思います。

課外活動の新しい試みとして、学習部が佐伯文化センターの講座に参加したり、高齢者向けのスマホ教室のサポーターとしてお年寄りと交流したり、1・2年生有志の生徒が津田商店街の活性化について地域の方々と課題を話し合い、提案をするなど活発に討議に参加してくれました。コロナウイルス感染拡大下でのボランティアや地域連携の新しいあり方を示す取り組みであったように思います。

今年は部活動の大会が自粛され、思うような活動がしにくい1年でした。その中で野球部が手作りでサヨナラ試合を企画して3年生最後の舞台を用意して運営したり、アーチェリー部が各種の県内大会において地道に結果を残し、春の選抜大会の出場を決めたり、総合スポーツ部は他校との交流試合を企画するなど、コロナ感染下の苦境をそれぞれの知恵と工夫で乗り切ってくれていると思います。

一年の計は元旦にあり」という言葉があります。これは、中国の曆に関する書物から。または毛利元就の言葉などと諸説ありますが、「一日の計は朝いちじつにあり、一年の計は元旦あしたにあり、十年の計は樹を植えるにあり、百年の計は子を教えるにあり」という文の一部分であって、計画は早い時期に明確に立てることが大切であることを示しています。

皆さんには、この冬休みの期間を自らの1年間を振り返り、新しい年に思う夢と希望を確認し、次の1年の冒頭に希望や目標を明確にしてほしいと考えます。そして、ご家族のみなさんと、行く年を振り返り、来る年への思いを語り合う機会を持って欲しいと思います。

最近の広島県の患者数をみると、もうすぐそこまで感染が広がっています。いつ誰が罹ってもおかしくない状況であるということ意識してこの冬休みの行動をしてください。では、1月7日には、元気に登校してきてください。少し早いですが、よいお年を迎えてください。